

空中三角形

人物

渡会竜輝（15）高校一年生・男子

新谷雪穂（15）高校一年生・女子

角川いつき（15）高校一年生・女子

○住宅街・二階部分中空

隣り合う渡会家と新谷家。その奥にある角川家のバルコニーが両家の窓の中間でこちらに面している。

渡会家二階の窓が開き、竜輝が自室で大きく伸び。

新谷家二階の窓が開き、驚く竜輝。

桜の花弁が舞う中、雪穂が同じく自室で伸び。竜輝に気がつく。

竜輝、雪穂に見惚れる。

雪穂「あ。初めまして。先週から家族でこちらに越してきました、新谷雪穂です」

竜輝「……初めまして。渡会竜輝って言います。あ、へえー。娘さんいたんすね」

雪穂「あ、ごめんなさい、マスク、した方がいいですよね」

竜輝「え？ いや、そのままです。顔見せて」

雪穂「はい？」

竜輝「いや、そうじゃなくて……ほら、ちよ
うど、ソーシャルダンス。保ててっから、

この距離。ほら、ね？」

雪穂、笑い出す。

竜輝「え、どうしたんすか？ なになに」

雪穂「だって」

笑い合う二人。の、向こう側。角川家

バルコニーに出ていたいつきが叫ぶ

いつき「ソーシャル・ディスタンス！」

驚いて振り返る二人。

いつき「ソーシャルダンスじゃねえよ、なに

空中で社交ダンス踊ってんだよ、ロマンチ

ックか」

雪穂、いつきと竜輝を交互に見て、微

笑ましく笑い堪える。

雪穂「あ。初めまして、新谷雪穂です」

いつき「雪穂ちゃん。初めまして、角川いつ

きです。竜輝とは、幼なじみなの」

雪穂「ふふ、でしょうね。いいなあ」

竜輝「え？」

雪穂「私、前いた家は近所に子供いなくて、

こういう距離感に慣れてたんです」

いつき（大声で）「えっ？ 聞こえない、もつと大きな声でお願いできる？」

雪穂（大声で）「私ー、近所のお友達に憧れがあつたんですーっ」

竜輝「いつき、ちよつと引つ込んでろよ、今は俺と新谷さんが話してんだよ」

いつき「聞こえないーい」

雪穂（笑って）「いいなあ、仲良しで」

× × ×

夜。風呂上がりの雪穂、窓を開け、夜風を浴びて星空を見上げる。

竜輝、自室の窓を開けて顔を出す。

竜輝（ぎこちなく）「こんばんはー」

雪穂「ここは綺麗に見えるんですね、星空」

竜輝「あ、そうなんすよ。わかりますか？

（指さし）あれが、北斗七星」

雪穂「え？ どれですかどれですか」

竜輝「ほら、光が強いあたり。タツノオトシ

ゴみたいな……その先に、スピカ」

雪穂「スピカ！ あれが。私、スピッツ大好

きなんです」

竜輝「あ。へえー、犬飼ってるんすね」

雪穂、笑う。

竜輝「あれ？ どうしたんすか？」

いつき「曲名だよっ」

再び角川家バルコニーにいつき。

いつき「だよね雪穂ちゃんっ、私もスピッツ
好きっ」

竜輝「お前、夜中にその大声やめろよ」

雪穂、角川家の方へと身を乗りだし、

雪穂「いつきちゃん、こんばんはーっ」

いつき「こんばんはっ……あれ、いい薰り。

雪穂ちゃん、シャンプー何使ってるの？」

雪穂「シャンプー？ これお姉ちゃんの。待

って、聞いてくる」

雪穂、顔を引っ込める。

竜輝「いつき、一々話に入ってくんなよ」

いつき「ここからは女子トークだから。竜輝
が引っ込んで。盗み聞きしないでね」

竜輝「難しいわっ、聞こえてくるっの」

いつき「スピッツでも聞いてたら？」

竜輝、舌打ちして窓を閉める。

○新谷家・雪穂の部屋

雪穂、ネット授業で勉強中。

窓にコツン、と紙先が触れる音。

窓を開ける。

渡会家の窓から、竜輝が細く長い糸で繋がれた紙飛行機を飛ばす。

失敗。糸を手繰り寄せ、また飛ばす。

雪穂、キヤツチして紙飛行機を開く。

中にメモ『ここに紙コップ』。

○角川家・バルコニー

いつき、前方を見て愕然。

渡会家と新谷家の窓に架かった糸電話。

○渡会家・竜輝の部屋

竜輝、緊張し糸電話で雪穂と会話中。

竜輝「雪穂は、もうこの街見て回った？」

雪穂の声「それが、全然なの。案内してよ、自由にお外出られるようになったら」

竜輝（喜び）「ああ。うん」

雪穂の声「いつきちゃんと、三人でね」

竜輝（落胆）「ああ。うん……」

○新谷家・雪穂の部屋（夕）

雪穂、窓を開け、角川家バルコニーを覗く。いつきの姿は見当たらない。

雪穂、窓枠に絡めて掛けたままにしてあつた糸電話を持ち上げ、引っ張る。向かいの窓が空き、竜輝が顔を出す。

（糸電話の二人、適宜カットバック）

雪穂「ここだけの話。竜輝くんといつきちゃんて、付き合ってたことあるの？」

竜輝「はっ？ ないって、無い無い」

雪穂「本当に？」

竜輝「それは無いです。マジで」

雪穂「本、当、に？」

竜輝「……気の迷いで。中二の時」

雪穂「やっぱり」

竜輝「でも、あいつがうるせえから、すぐ別れたんだ」

○住宅街・二階部分中空（夕）

会話を遮る様に、糸の先端に付いた小石が角川家バルコニーから投げ飛ばされる。糸電話の糸の中心部に絡まって回転し、渡会家庭先に落ちる。鼻息荒く投石したのはいつき。

竜輝と雪穂、驚いて石を見下ろす。

竜輝「（鬱陶しく）あっ？」

雪穂「（楽しく）わあっ」

○渡会家・庭先（夕）

いつき、落ちた石の代わりに糸の先端に紙コップを貼り付ける。

竜輝（見下ろし）「不法侵入だからな」

いつき、紙コップに耳を当てる。

糸電話がT字になった形。

いつき、両家の窓辺を見上げる。

竜輝、雪穂と糸電話で会話続行中。

いつき、紙コップに耳を澄ますが。

いつき「……聞こえないっ」

○角川家・バルコニー（夜）

いつき、前方の糸電話を見張る。

新谷家のこちらに面した窓がいきなり

開いて、雪穂が顔を出す。

いつき「わっ」

雪穂「こんばんは、いつきちゃん」

雪穂、新たな糸電話を片手に笑顔。

○渡会家・竜輝の部屋（夜）

竜輝、窓から顔を出しハツとする。

こちらの死角で新谷家から角川家へ糸

電話が伸びて、いつきが話している。

いつき、楽しみに紙コップに何か吹き

込みながら、竜輝を見てほくそ笑む。

○角川家・バルコニー（翌日）

いつき、ロッキングチェアを出して寝
転び、雪穂との糸電話片手に昼寝中。

その体に着地する、糸付き紙飛行機。

いつき、目を覚まし、振り返る。

竜輝が渡会家の窓から顔を出している。

× × ×

いつき、竜輝と糸電話中。

竜輝「お前、雪穂に余計なこと吹き込んでな

いよな」

いつき、耳がこそばゆくて笑う。

竜輝「何笑ってんだよ」

いつき「なんかさ、懐かしいね、これ」

竜輝「はあ？ いつの話？ 忘れた」

いつき（ムツとして）「じゃあ私も忘れた。別
に、私が雪穂ちゃんと何話してたって、竜
輝に関係なくない？」

言い合いを続ける二人。

○新谷家・雪穂の部屋

雪穂、隠れて喧嘩する二人を眺める。

姉の声「まーた悪い癖が出てる」

雪穂、ビクツとして振り返る。

ドアの前で、雪穂の姉が腕組み。

姉「雪穂。今度は円満にやんなさいよ。友

達の人間関係壊すなんて悪趣味やめて」

雪穂「ひどいよお姉ちゃん、そんな言い方。

私、そんなつもり無いもん」

姉「どうだか」

雪穂「……私は好きになっただけなのに、皆

が勝手に壊れてくんだもん」

姉「恐ろしい子だよ、ホント。で？　今回は

どっちの子、狙ってんの？」

雪穂「……」

雪穂、微笑を浮かべる。

○住宅街・二階部分中空

渡会家、新谷家、角川家に架かった糸

電話の糸、歪な三角形を成している。

雪穂の声「ないしょ」